北九州市の観光KPIと地域経済・社会変化のデータ

（令和5年度と令和6年度比較）

北九州DMO連絡会議

■北九州市の観光KPIと地域経済・社会変化のデータ

（令和5年度と令和6年度比較）

指標	令和5年次	令和6年次	変化率
観光客数（延べ人数）	2,222万人	2,531万人	+13.9%
実観光客数	996万人	832.4万人	-16.4% （※周遊性向上による滞在時間延長の影響）
外国人観光客数	26.9万人	36.7万人	+36.4%
観光消費額	1004.1億円	979.9億円	-2.4%
宿泊客数	135.9万人	151.5万人	+11.5%

※これらのデータは北九州市観光データサイト「KTAS」及び北九州市観光動態調査報告書から取得しています。

■北九州市の観光KPIと地域経済・社会変化のデータ

（令和5年度と令和6年度比較）

●周遊性と滞在行動の質の向上

私たち北九州DMO連絡会議は、エリア連携やテーマ型観光の造成、回遊導線の整備を進めてきました。
その結果、＜実観光客数は減少（-16.4%）＞した一方で＜延べ観光客数は増加（+13.9%）＞という、
“1人あたりの滞在時間・周遊回数が増える”行動変容を生み出すことができました。
これは、私たちが目指してきた「点から面へ」「短時間訪問から滞在型へ」という
観光行動の質的転換が着実に進んでいる証拠です。

●インバウンド施策が大きく成果を上げた（+36.4%）

外国人観光客数は大幅に増加しました。
私たちはこれまで、多言語プロモーション、港湾・空港との連携、受入環境整備、SNSを活用した海外向け情報発信を重点的に進めてきました。結果、インバウンド市場で北九州の存在感が確実に高まり、訪問者数の大幅増につながりました。

●宿泊需要の底上げに成功した（+11.5%）

宿泊客数の増加は、私たちが取り組んできた宿泊事業者との共同キャンペーン、ナイトタイムエコノミーの強化、
宿泊と体験を組み合わせた商品造成といった施策が、滞在型観光の促進に寄与した結果です。
宿泊者が増えることは、地域経済への波及効果が大きく、観光産業の収益力向上にも直結します。

● 観光消費額は微減だが、構造改善が進んだ（-2.4%）

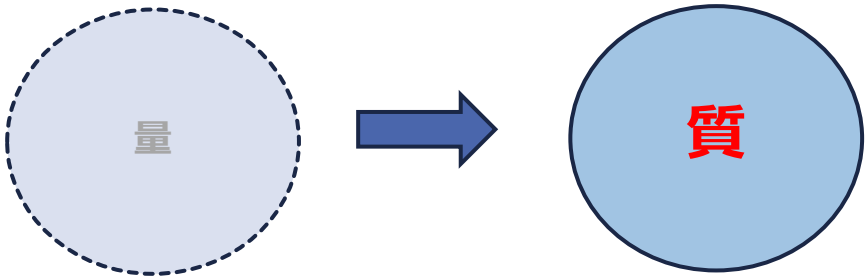
観光消費額はわずかに減少しましたが、これは物価変動や特定セグメントの減少といった外部要因の影響が大きいと考えています。
一方で、宿泊者増、インバウンド増、周遊性向上といった“観光行動の質”は確実に改善しています。
私たちは、この質的改善こそが今後の消費額回復・増加の基盤になると捉えています。

■北九州市の観光KPIと地域経済・社会変化のデータ

（令和5年度と令和6年度比較）

これまでの取り組みにより、

観光の「量」から「質」へとステージを進めることに成功しました。



周遊性向上	**延べ観光客数増**
滞在時間延長	**宿泊客数増**
インバウンド強化	**外国人客大幅増**
行動の質改善	**今後の消費額増加の土台形成**

私たちは、データに基づく観光戦略をさらに深化させ、
地域経済と地域社会の持続的な発展に貢献するDMOとして、
次のステージへ進んでいきます。